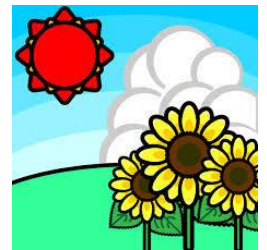


しんぶん 大村洋子

ヨーコ・ヨコスカ・ストーリー♪

2018年7月5日発行 147号
三浦半島地区委員会 公郷2-21-1
046-851-1123
大村・携帯 090-1107-0498
ブログ [大村洋子](#) →検索



中学校完全給食

川崎市南部学校給食センターを視察しました

横須賀市では、2021年の夏から、旧平作小学校跡地で1万食の給食センターが稼働する予定です。

校舎の解体、土質調査、計画・建設運営・管理等の事業者決定など、先の話ではありますが、より良いものを作ってほしいため、「横須賀にも中学校給食を実現する会」のみなさんと一緒に視察を行いました。



上の丸い容器はおかずやスープをつくるお釜で、1個で1,000食分です。全部で29個あり、このセンターでは1日に中学校22校分15,000食をつくっています。

お釜の下には網が貼ってあり、排水溝が接続されていました。熱源は蒸気とのことでした。

試食はロールパン、ミートパスタ、ベジタブスープ、フルーツ白玉、牛乳。野菜たっぷりとても美味しかったです。

アレルギー対応調理室では約40名の生徒の専用除去食をつくっていました。除去の食材は、卵、乳、小麦。4名の栄養士が対応しています。



横須賀市の中学校完全給食は、センター1カ所、設計建設運営管理、これらは民間の共同事業者が丸ごと入札によって決定され、進められていく運びとなっています。

7月からはその選定委員会が建築、衛生、金融の専門家と公募市民が入ってスタートします。

今回の視察は、食数こそ横須賀市の15倍ですが、配食の校数はほぼ同じです。民間事業者導入という点でも共通していることから、昨年9月からスタートした川崎市が視察候補となりました。

市の栄養士が現場の調理員指導者と綿密に打ち合わせをしていきました。栄養士は労働法との関係で調理業務をしている調理員を直接指示するのは出来ないという状況です。法に抵触する点も多く、的確に市の理念を伝えることが可能なか実際におこなうことなのか疑問が残ります。

食材の選定調達、献立作成を教育委員会の栄養士がおこなうことが食育の観点から、とても大切で。

民間事業者が主導となれば、栄養価や食育、安全性の面が疎かにされ、単に利益を上げることに重きが置かれる可能性もあります。

横須賀市も今後、具体的に進められていく際いろいろな課題が出てくると思います。より良いものになるよう引き続き働きかけて参ります。

生活福祉課に直接質問しました



ケースワーカーによって、回答にバラツキがあります。対象者にきちんと伝えてください。



ケースワーカーAさん
東京など遠いところの病院の交通費は支給されます。

生活保護の人の
通院の時の交通費

ケースワーカーBさん
交通費は病院1か所なら支給されます。

正式な回答

議会の会議録に載ります



電車、バスなど申請すれば支給されます。今後、対象者全員にお知らせを送ります。ケースワーカーにも伝達し徹底します。

大村洋子はこう考えます。
“誰も一人にしないまち”というなら、最後の安全網である生活保護制度をもっと周知し、必要な人が利用でき、今、利用している人にとって使い勝手の良いものになることが大切です。

通学路に亀裂の入った塀があるのですが…



先日、タイトルにあることで、お手紙によるご相談がありました。大阪で起きた地震によって、女兒が学校プールに隣接した塀が崩れ、亡くなるという痛ましい事件がありました。そのことを受けて、実は・・・という内容でした。現場に行き確認して、土木部、都市部など担当者に伝え、持ち主に伝えてもらいました。改善を見守ります。

横須賀市は地震翌日から2日間かけ、全市立小学校のスクールゾーン内の通学路におけるブロック塀などの危険箇所について緊急点検を行いました。その結果、小学校全46校で述べ507か所見つかりました。「危険箇所」とはブロック塀の高さが2.2mを超えるもの、それ以下の高さでもひび割れや傾斜があるものを指します。引き続き、改修状況について、確認してまいります。

編集後記

過日、グアム島に行きました。自然・文化・基地問題を学ぶというテーマで4泊5日の長旅でした。沖縄の海兵隊がグアムへ移転するにあたって、日本政府が出した金などのように使われているのか、その現場を目の当たりにしました。それは北西部のアンダーセン米空軍基地へ向かう道路拡張工事でした。先住民のチャモロ人たちが、薬草として使ってきた大切な木が重機によって無残にも破壊されていました。北西部の「リテクサンの森」もまた、チャモロ人たちの聖地と言われていますが、実弾射撃演習場が基地内につくられ、隣接する森への影響も懸念されています。普天間基地の移設問題で、「少なくとも県外、出来れば国外」などと言われた時期がありました。グアム島の視点から海兵隊の移設を考えれば、いかに日本の言い分が都合の良いものがわかります。グアム先住民、沖縄、本土、それぞれの立場や視点から考えるとまるで違う捉え方があるということを今回、痛烈に学ぶことができました。